

# OB紹介



広島エフエム放送 営業本部（営業担当）  
馬場 啓之 さん

「お仕事について  
教えてください。」

広島FMで営業の仕事をやっています。ラジオ局での営業という仕事はイメージしにくいかもしれませんが、分かっていると思いますが、ラジオという機械を売るわけではないので（笑）私も最初は何をやるのか分からなかったんですが、ラジオという媒体で広告を出しませんかとスポンサーに声をかけるといのが基本的な仕事です。24時間放送している番組全体

が、一応売り物になります。テレビを見ていても、色んなCMが流れていると思いますが、民放局というのはCMでお金を稼いで番組を作っている、逆の言い方をすれば、番組を作ってお金を稼いでいるものなんです。どんな商品にしても、メーカーがあって、販売店があつて、我々買う人がいる。その流れで行くと、我々はメーカーに近い立場ですね。

ラジオ局というとみんなはリスナーで、それも媒体にとってのお客様になります。広告を出してくれる人もお客様になります。だから、両方にとって魅力的である必要がある。24時間週7日の放送をどんな放送にするか。それによつて、うちの番組はこんな面白い番組なんです、こんな人に聞かれています、だからここに広告出したら効果がありますよということを説明していくことが営業の仕事です。放送の中でCMを流すことができる枠というのは限られています、その限られたところでお金を稼ぐ仕事と言えるかもしれませんね。今広島FMの営業

部の部員は全体が約30人に対し、6人です。しかし、扱っているスポンサーは数百社あります。6人ですべてのスポンサーに対していつも営業を行っていくことは不可能なので、色んな媒体の情報を仕入れて幅広く広告主さんに知らせていく、色んな提案をしていくという立場の広告代理店が仲介役を担っています。

営業の仕事を簡単にいうと、例えばうちの番組はこんな面白い番組でこんな人たちに聞かれていますから広告を出してくださいというのを説明していく仕事、それが対スポンサーの時もあるし対広告代理店の時もある、ということ。ラジオ放送という限られた中で色んな事が出来まますよということを提案していくというのが仕事になりますね。

既存のCM枠にCMを出してもらうというのも仕事ですが、話をしていく中で、うちはこのように所にCM出したい、こういう番組だったからおもしろいと思うというようなニーズが出てきたら、営業から制作にこんな番組できないで

すかという提案、こんなコーナーやれないですかという提案をすることはあります。番組を作るのは制作だけではないので、営業でも入社前にやりたかったことはやれているし、そういう部分は面白いと思います。

「社員数約30人の内6人の方が営業とのことですが、それ以外は制作の方がほとんどなんですか？」

制作も部員で言ったら6人ぐらいしかいませんね。部署で言うと、総務・経理、営業、制作、それから事業広報部というものがあります。何故事業と広報が二つ一緒になっているかというと、放送局がやるイベントは反面その放送局の広報活動でもあるからです。イベントを開催して収入を得る部分もある一方、広島FMはこんなことをやっている会社ですよという広報活動でもある。そういう意味合いでその部署は1つにまとまっています、そこに所属している社員は2、3人です。他の部

署は、分かりにくいと思います  
が、業務というのは簡単にいうと  
制作と営業の橋渡しみたいなこと  
が仕事です。営業がCM枠を売っ  
ていく中で今度こういうCMをや  
ることになりました、この番組の  
このタイミングにCM枠を設けて  
ください、ここにこういうCMが  
流れますというのを指示していく  
ことが業務の仕事になります。

### 「今のお仕事に

### 就くまでの経緯は？」

私はテレビ局しかうけていな  
かったんですよ。もっと言えば、  
テレビ局のアナウンサーしか受け  
ていないんです。大学3年の9月  
ぐらいからずっと東京、大阪、名  
古屋、福岡まで各局全部受けてい  
く中で、ふとラジオ局も受けてみ  
ようと思って。ラジオは地域性の  
ものだという感覚があったので、  
聴いたことのないラジオ局を受け  
るのはどうかと思ひまして。ラジ  
オ局はいわゆるメインの時間帯は  
ほとんどが自分のところで作った  
番組を放送しているんです。地域

の情報も頻繁に流すし、地域と密  
着しているようなメディアだか  
ら、聞いたこともない、ましてや  
行ったこともない土地の放送局に  
就職というのは考えられなくて、  
広島だけラジオ局を受けました。  
それがよく車で聴いていたFM広  
島で、なにかご縁があって採用し  
ていただいたと思っています。た  
だ営業になったのはどうしてかと  
言われたらそれは会社の決めたこ  
とだから、自分ではよく分かりま  
せん。やってみて割合向いている  
方だろうとは思っています。  
自分の局がどう思われているか、  
その媒体の価値としてどう思われ  
ているのかを一番感じるのとは多分  
営業だと思うから、そういう面で  
は面白いです。

### 「今までにお客さんの

### 満足度を実感した

### お仕事はありますか？」

私の入社前の話ですが、200  
9年の3月頃、ソレイユで行った  
レミオロメンの公開録音は評判が  
良かったようです。ソレイユから

すればそういうアーティストが来  
ることで当然大勢の人が集まって  
来るというメリットを感じてもら  
える、リスナーからしてもタダで  
寄れるようなところで、生でアー  
ティストのトークが聞けて見られ  
てというのはメリットがあります  
よね。本当に人が集まりすぎて他  
のショップに迷惑をかけたという  
こともありましたが、未だにああ  
いうイベントはまたやりたいと言  
われますしね。正直、お金さえ出  
せばできるといふものではなく、  
それこそ色んなタイミングが合わ  
ないとできないことなんです。  
そういうまあまあ目に見えて成功  
したな、という仕事はあります  
ね。ただ、ラジオは長期的にやつ  
てこそものだから、単純に成功  
した・成功してないということが  
ちよっと難しい面もあります。イ  
メージを作っていくことが長期的  
なラジオとしての役割だと思うの  
で。例えば焼きそばのUFOで  
は、かつて若い子の食べ物という  
イメージではなかったものを、若  
い子が食べるものだというイメー  
ジに変換してあげること、つまり

メーカーがやりたいと考えている  
ことをうまくサポートできたら成  
功なんです。ただ、短期的な集客  
や売り上げを上げるような宣伝を  
求められて実際に数字の上ではそ  
の月は伸びたけれど、その後急落  
したり、以前からのお客様が離れ  
ていってしまったたりするようなこ  
とになれば、それは成功とはいえ  
ないと思います。ケースバイケー  
スですね。相手が求めていること  
をやりとげてはじめて成功なの  
で、難しいといえれば難しいです。



熱心に馬場さんの話を聞く編集委員

「総合科学部でよかったと思っ」とはなんですか？」

いろいろかじれたことですね。

私の場合には特に色んな人と話す仕事だから。学生時代は結構色んなものに手を出していて、最初は哲学に興味があったんですが、ちよつと留学したから言語に関心を持つたり、野球をやっていたからスポーツについて勉強してみたりして：最終的にそれらが混ざってスポーツ哲学というものにたどり着きました。その中でも、専門分野に関係のない授業で文化人類学が面白かったとか、ジェンダー学の授業が面白かったとか：興味のある授業は何でも受けているから、その話を聞いたときにちよつとでも自分の中に蓄えているものがある。何でも興味を持って聞けるし：ああこれ前に授業でやったなと少しでも思い出せれば、色んなものに対する興味の持ち方が変わってくると思うし。色んなところにアンテナを張ることができるようになりました。実際それが一番よかったことだと思います。

ます。



笑い合う馬場さんと編集委員

「どんな学生生活を

送っていましたか？」

私は軟式野球サークルとバンドのサークルに入っていました。4年間お好み焼き屋でバイトをしていて、半年くらいは牛乳の仕分けのバイトもしていましたね。だから3年のときは結構生活がハードでした。大学に行って、お好み焼き屋でバイトして、それから夜12時からバンドの練習を午前2時とか3時までして、少し寝

て、朝6時に起きて牛乳の仕分けのバイトに行ったりしていたから：あの時はすごく満足感がありましたね。一日という感覚が分からなくなっってはくるけど、あの時は：よかった。きつかったけど、すごくがんばっているなという感覚はありました。「こぼん」というお好み焼き屋さんでのバイトは、いい経験だったと思います。広島になじむきっかけにもなったし、地元のおじさんたちの広島弁も聞けたし。

「今も学生時代の友達とは

交流がありますか？」

割とありますね。この前のフェニックスソフトの大会も、東京や福岡からわざわざそれだけのために行ってきたり試合に出ている人もいるから、よくやるなと思いますけどね。広島で就職している人は月一回二回位の頻度で会うし：意外と学生時代より交流があるかもしれないですね。当然だけど広大のときは、周りは広大生ばかりでしたが、今だと違う人が周りに

いる中で広大出身者に出会うと、それだけで親しみを持てるようなところはあります。

「後輩へのメッセージを

お願いします。」

色んな考え方を学べば良いのではないかと思います。それこそ野球をやっているひとには野球をやるし、バイトの仕事の中ではその中の価値観があるし、色んな価値観に触れて、その中で自分が良いと思う考え方を自分のものにしていけたら良いのではないのでしょうか。自分の価値観だけに囚われないひとになれるように大学時代は過ごしてほしいと思います。だから何でも良いからちゃんとやってほしい。趣味なら趣味で、やるなら一生懸命やる。私の場合はバイトでしたが、一応4年間やっていたから、結構本気で。一番の接客をしようという気持ちを持っていましたから。できるだけ気持ちよく接してあげたいとか、「あの店員さん良いね」み

たいな話を会計が終わった後でお客さんがしてくれないかなとかちよっと期待したりしてしまいましたね(笑) 一生懸命やれば、そこの価値観みたいなものが見えてくると思うし。片足突っ込んで外から眺めているような気持ちでいたら、自分の価値観が変わらないこともあるから。学生時代は色んなことを学ぶ時期だと思うし、あまり色んなものを冷めた目で見ないで、そこにはその考え方があるから、素直にこういう考え方があるんだと受け止めることをたくさん経験したほうが良いのではないかと思います。そのうちに、自分の好きな考え方を集めていけば良いと思うし。だから、だからするのなら徹底的にやらせたらしてみるとかね。一週間くらい家から出ずにいようとか、思うことを実際にやってみたら良いと思いますし。それをやっていたら悟りが開けるかもしれません!(笑) 自身全部を一生懸命やれていたかというところではないんですけどね。バイトは一生懸命やっています。一生懸命やっても嫌なこともありましたけど。今学生時代を振り返ってみると、あれだけ時間があって何をやっていったんだろうと思うこともあるから:勉強をやるにしろ、何をやるにしろ、今仕事をやるくらいに集中力でちゃんと全部やっていたら、もう少しちゃんと、色々やれたのではないかと思うこともあるから。何かひとつでも頑張ってみてください。

「将来したいことはありますか?」

音楽番組を作りたいかなとは思っています。作りたいというか、ちゃんとお金をつけて、自分の担当するクライアントのメリツトにもなりつつ、ちゃんと番組的にも面白いようなもの:作りたいですね。自分の好きな、例えばインストのバンドばかりを流すとか:それは若干聞いた話になりますけど。でもそういう番組がうまくはまるところを探したりとか:。といっても、この会社に入った時点では、制作的なことをしよ

うと思っていたんだから、営業の立場でそれを実現させたいという気持ちはありますね。面白い番組を作りたい。私がやっているのは製作とスポンサーの意向との間をとるような仕事だから:いつかそういうものを作りたいです。1時間番組、30分番組でもいいから。やりたいことと言われれば、そんなところですかね。

◆一問一答◆

- ・趣味 自転車での遠出と野球
- ・好きな食べ物 最近汁なし坦々麺、あとはお好み焼き
- ・好きなスポーツ 野球と自転車
- ・好きな有名人 水川あさみ
- ・好きな音楽 ボブディラン、BUMP OF CHICKEN、ハンバートハンバート、斎藤和義
- ・好きな本 瀬尾まいこ「卵の緒」
- ・好きな映画 容疑者Xの献身、告白、ケンタとジュンとカヨちゃんの国
- ・好きな言葉 じぶんじしんを幸福だとおもわない人間はけっして幸福ではない。 サイラス

【担当】

21生 平野 詩歩

22生 綾部 佑香 井上 知紀 佐々木 達哉 原 未緒

# OG紹介



読売新聞大阪本社 高知支局 記者  
榎矢 今日子 さん

「お仕事について教えてください。」

言うまでもないですが、まだ入社して3カ月。右も左もわからない新人です。

主に事件や事故、火事などを書く警察担当をしています。担当の警察署に朝、夜と他の取材が入っていない時間などに行きます。他には、天候（大雨、真夏日など）や街のイベント、季節もの、先輩の取材の手伝いなど仕事は様々で、何の取材があるのかは自分でも

まだ把握しきれていません。

学生時代だと、政治の話などは「全国ニュースが報じる、国の真ん中の話」と、自分とは関係が薄いと思ってしまうことも、もちろん実際は地方の隅々まで影響します。首相が辞任すると街の声を聞く、高速道路を無料化すると観光客の感想、裁判员裁判では裁判员経験者や選考から外れた人の話、W杯ではラグアイ戦なら県内のラグアイ人を見て観戦の様子を取材…など、全国の話題を県民の視点に置き換えて街の人の声を拾いに行きます。正直、日々ついていくのが精いっぱいに分らないことだらけ。でも、法律や裁判だって日常の生活にすぐく密接に関係するの、この職じゃなかったら曖昧にしか知ることがなかったかも…と思うと、仕事をしながら色々な分野を勉強できるのは幸運かもしれないですね。そして、夏は高校野球です。スコアブックの付け方から練習しています…。同業他社の同期とも接点が多く、もちろんライバルなのですが時にはグチを聞いたり、慰め合ったりしています。ちなみに、高知支局には10人程度しかいな

いのに、記者には総科06の先輩もいます！

「今のお仕事に就くまでの経緯は？」

身近にいた記者の方々の話を聞いていて、大学2年の頃には自然とその方面を考えていました。その一方で、留学やフランス語の勉強もずっと続けたかったので、進学もギリギリまで考えたりしていました。それでも、就職活動でやりたい方面がある程度決まってるんだから、後悔しないように就活はしようと3年の1月に決めて…。就活では12社くらいしかエントリーしませんでした。2社を除いて他は地方紙数社と今の会社、地元テレビ局3社の記者職だったので、正直不安は大きかったですね。ただその分、1社にかける準備期間が多かったので良かったです。ちなみにテレビ局は、もともと新聞に行きたいと思っていたのが伝わったのか、どれもあっさり終わりました。

3年生の時から始めたHTU-Styleと中国新聞のキャンパスレポーターの活動は、文章を書くことに全く慣れていなかった私を随分助け

てくれたと思います。何より、そこで同じような目標をもつ仲間や、編集に携わる先輩方に会えたことが心強かった。そして、私がしてきたことで一番必要だったと思うのは、気になるところがあれば自分の足で行くこと。3年生の2月、就活の真っ最中でしたが、新聞で他大学のゼミが沖縄の戦跡を当時の人と同じように歩くという戦跡巡礼をするという記事を見ました。漠然と、戦争や戦時中の人々の暮らしなどに興味があったけど、広島のこと以外は全然知らないなと思っていたところだったので、思い切って申し込みました。そこで今の会社の方が取材に来ていてお話を聞けたことが、受験するきっかけでもあったし、仕事に就けた要因の一つではないかと思っています。

## 「総合科学部でよかったと

### 思う」とはなんですか?」

総科の勉強を(ヘイス作り)に例えた話がありました。子どもが座るためのイスを作るようになった時、工学なら技術や材料、芸術学

ならデザイン、教育学なら勉強のしやすさ:といったように、専門知識を用いて取り組むと思います。どれも必要だけど、どれかだけではだめ。ひとつのことを成し遂げるとき、どの分野の力が必要か的確に判断して、自分の得意分野も生かしながら要素を集めていく。それが総科の力の一つなのでは、とその話を聞いて納得しました。私自身の仕事はまさに多分野に目を向けないといけないもので、学部で例えるなら総科じゃないかな:。実際に同じ業界で働く総科の先輩は少ないようです。

私の場合、いろんな分野に興味があつて、「フランス」「戦争」「広島」「新聞、マスメディア」、気づいたらその当たりのことを学ぶことが多かったですね。卒論には、結果的にそれらを加えられたと思います。「フランスの新聞で見る(被爆した都市としての)ヒロシマ」がテーマでしたが、これは総科だからできたテーマの融合ではないかと思っています。

そして、よく言われる「総科は仲良し」。それは確かで、プログラムに関係なく誰とも話す機会があるのは良かったです。1年生

時の班に何人が加わったメンバーで、長期休みにはよく旅行に行きました。韓国の際は20人、台湾は10人で、多すぎたかもしれないけど今思えば大学生だからできた旅。今でもその時と同じテンションで思い出話ができるのが楽しいです。スペイン広場や西図書館の前のベンチで、ぼーっと話した日々のことも、何にも代え難い思い出です。

## 「どんな学生生活を

### 送っていましたか?」

総科の空間も好きですが、キャンパス全体をうろろろしていました。中央図書館やマーメイドカフェは、誰かに会えるしゆっくりできるのでよく行きました。人間関係には垣根を作らず、色んなところに顔を出して学部や学年関係なく友人ができたのが一番の財産です。2年生からは、毎夏広大であったFICの模擬国連に参加しました。不安もあったけど、色んな国の学生に会えて一緒に話し合えるチャンスが目の前にあるのに、うまく英語が話せないという理由で参加しないのはもっ

たいなさすぎる！と思ひ、行っていました。他学部の学生にも、刺激と楽しい時間をたくさんもらいました。

3年生の後期には、フランスに4カ月留学しました。私が留学した街は、西条と広島市の間のような規模で、ほとんどスペインの国境沿いに位置しています。日本人がほとんどいなかったので語学留学にはぴったりでした。お金もそんなになかったので、他国はスペインしか行けなかったのは残念だったけど、国外で生活する経験を学生時代にできたことは今後の考え方も広げてくれるはず。留学を応援してくれた家族と先生に感謝です。留学後は、広大での授業も理解度がずいぶん上がりました。総科の授業も文学部の授業も、フランス語の講義は大好きでした。

## 「後輩へのメッセージを

お願いします。」

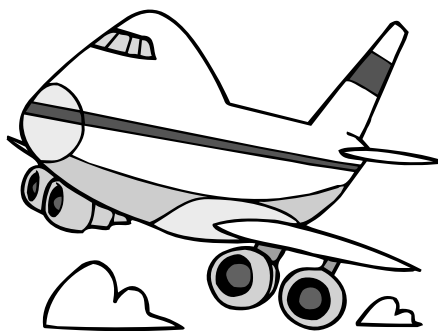
総科の仲間はそれぞれが自分の知らないフィールドを持っています。入学前も卒業後も全然違う人が多いからこそ、総科で交われ

たことを大切にしてい、貴重な4年間で一緒に色んな経験をして色んな話をしたら、きっと自分の世界も広がるんじゃないかなと思います。

「他学部に比べて専門性が浅いのでは…」と心配になることもあるかもしれないけど、先生はどの方も専門知識を豊富にもっていらっしゃるはずですし、自分が何かやろうと思えばどこまでもサポートしてくれる場所だと思います。様々な分野に仲間や先輩がいることで、この先思わぬチャンスや出会いにつながるんじゃないかなと楽しみにしています。そして、もし今総科生に戻れるなら、もっとたくさん総科の先生とも話をしたいです。

総科生は留学したり、フィールドワークや旅をしたり、フットワークの軽い人が多いような気がします。私の周りや後輩もそうでした。知らない場所や、外国に目を向けて、実際に足を運ぶには、大学時代ほど軽快に動けるときはないかもしれない。他の国も思ったより近づいているようにも思います。今自分がある場所に自信を持って、気になったこと

には後悔しないように挑戦してほしいです。



◆一問一答◆

・趣味

語学（フランス語と、大学4年の時に始めた韓国語をどうにか続けたいです）、友達と離れてから文通もよくします。

・好きな食べ物

高知に来て知った魚や貝、小夏などの果物もおいしいです。

・好きなスポーツ

野球（観戦）、テニス。

・好きな音楽

Jason Mraz、Daniel Powter、コブクロ。  
授業や留学中に知ったフランスの曲、韓国のK-POP好きです。

・好きな本

『「在外」日本人』。最近ヴィレッジバンガードで見つけた『ドリームス おとなになったら、なんになりたい？』。子どもたちの夢が写真付きで載っている。いつかこんな旅をしたいなあと思いながら夢を膨らませています。

・好きな映画

コーラス、スパニッシュアパートメント、クライマーズ・ハイ、その名にちなんで。

・好きな言葉

謙虚さと意地を持って Think globally, act locally.

【担当】

21生 平野 詩歩

22生 綾部 佑香 井上 知紀 佐々木 達哉 原 未緒